

平成27年度 島根県中山間地域研究センター 研究フォーラム -東部地区-

開催趣旨 島根県中山間地域研究センターが調査、試験研究で得た成果を早期に現場等へ技術移転するために、情報を提供するとともに意見を交換する場として開催します。

開催日時 平成27年10月13日(火) 13:30~16:45

開催場所 島根県職員会館 2階 多目的ホール
(松江市内中原町52 TEL 0852-22-6100)

開催日程

- 受付 12:45 ~ 13:30
- 開会・あいさつ 13:30 ~ 13:40
- 研究発表 13:40 ~ 16:30

開催テーマ：暮らしと生業の条件整備による次世代定住の推進

1. 中山間地域のまち・ひと・暮らし
~H26 島根県中山間地域集落総合調査より~
- 地域研究スタッフ (専門研究員) 安部 聖 -
2. 定住に必要な生活費と地域経済循環による所得創出可能性
~中山間地域家計調査データを用いて~
- 地域研究スタッフ (主席研究員) 有田 昭一郎
(主席研究員) 川上 宏
(専門研究員) 佐藤 充浩 -
3. 地域ぐるみの鳥獣対策による農業振興
~広域防護柵の維持管理の重要性~
- 鳥獣対策科 (主任研究員) 澤田 誠吾 -
4. 中山間地域における有機農業の可能性
- 資源環境科 (研究員) 山根 渉 -
5. 林業用苗木の需要の高まりと苗木の新しい生産方法
- 森林保護育成科 (専門研究員) 陶山 大志 -
6. 産業振興と地域内循環を木材乾燥から考える
- 木材利用科 (研究員) 片岡 寛嘉 -

○総括質疑 16:30 ~ 16:40

○閉会 16:45

□展示・販売 13:00~16:40

※裏面に発表要旨を記載しております



◆ 一般公開・参加費無料

◆ 問い合わせ先

島根県中山間地域研究センター(企画情報部) 杉原
TEL 0854-76-3809 FAX 0854-76-3758
HP : <http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

開催テーマ：暮らしと生業の条件整備による次世代定住の推進

中山間地域研究センターでは、「地方創生」を目指した取り組みとして、次世代の定住に向けた条件整備を推進するため各研究員が連携を一層強化し、分野横断型研究体制の強みを活かした現地実証型研究、現場支援、情報発信を進めているところです。

今回の研究フォーラムでは標記の開催テーマを定め、「暮らしの受け皿づくり」、「産業振興、雇用・所得確保」の切り口から、これまでの研究成果・状況を発表します。

○発表要旨

①中山間地域のまち・ひと・くらし ～H26 島根県中山間地域集落総合調査より～

昨年度実施した集落調査結果から、島根県中山間地域における人口動態、特に若い世代の増減、寄合や祭り、草刈といった地域活動の状況や、買い物や鳥獣被害など生活していく上での課題が明らかになりました。これらのことから、次世代定住に必要な条件について紹介します。

②定住に必要な生活費と地域経済循環による所得創出可能性 ～中山間地域家計調査データを用いて～

当センター実施の家計調査データ（H21～）を用いて開発した『田舎暮らし設計』（定住に必要な生活費シミュレーションソフト）と移住世帯に必要な生活費例を紹介します。また、同データを用いた地域経済循環調査より地域のお金の出入り状況と循環強化による所得創出可能性について紹介します。

③地域ぐるみの獣害対策による農業振興 ～広域防護柵の維持管理の重要性～

集落調査によって、鳥獣被害に困っている実態が明らかになりました。そのような地域のひとつである浜田市田橋、横山地区において、WWF ジャパンと共同で地域ぐるみの獣害対策の実践型研究に取り組んでいます。この地区で設置した広域防護柵（ワイヤーメッシュ柵）とモデルカキ園での電気柵の効果について紹介します。

④中山間地域における有機農業の可能性

有機農業はU I ターンを希望する人達に関心を持たれています。しかし、栽培技術が十分に確立されていないことや、経営が不安定であることなどの問題を抱えています。そこで、生業として有機農業に取り組むための経営モデル作成に向けて、トマト、ナス、キャベツ等の栽培技術について報告します。

⑤林業用苗木の需要の高まりと苗木の新しい生産方法

近年、林業では伐採面積が増加し、再造林面積が拡大しつつあります。これに伴って、苗木不足が懸念されており、苗木の供給力を増す必要があります。一方、林業用苗木ではコンテナ苗と呼ばれる新しい苗木が注目されています。このコンテナ苗を使用すれば、再造林コストを削減できる可能性が高いことが最近の研究から分かりつつあります。本発表ではコンテナ苗の栽培方法やそのメリットについて紹介します。

⑥産業振興と地域内循環を木材乾燥から考える

次世代定住を推進していくためには地元産業の基盤強化が必要です。木材産業においても製品化に至る過程でのコストダウンが求められており、中でも「木材乾燥」過程での低コスト化が課題となっています。そこで従来の木材乾燥施設に替わる自然エネルギーを利用した省エネ型木材乾燥機を新たに開発したので報告します。